エンジニアリング事業

エンジニアリング事業は、鉄道機械、営農施設、産業機械の3分野から成ります。お客様はそれぞれ全く異なる業界ですが、ニーズに応じて自社で開発・設計したものをアウトソースにより製作する事業という共通点があり、設計・施工技術の共有化や協力業者の相互活用が可能です。機械単体の販売だけでなく、ライン構成や管理システムなどを含めた設備システムとして提案・構築し、納入後のメンテナンスまで含めたトータルサービスを提供しています。

常務執行役員　エンジニアリング本部長　大島 浩



外部環境認識

本事業で扱う各種機械設備は、社会基盤を支える重要な設備であり、今後も一定の需要が継続すると見込んでいます。鉄道機械分野では、車両検修の機械化・自動化に向けた技術導入が求められています。また、JR東海が推進する中央新幹線向けの機械設備は、将来の保守業務まで含め、大きな事業機会になると考えています。

営農施設分野では、施設の老朽化対応や農業従事者の高齢化による作業負荷軽減が求められています。また、共同利用施設の再編・集約や合理化に対する国の支援も具体化しており、更新需要は今後高まると見込んでいます。

産業機械分野では、ペーパーレス化により印刷用紙の需要は減少していますが、家庭紙は安定した需要があり、設備投資も継続的に見込まれます。また、リサイクル業界の市況が活発化する中で、当社が扱う破砕機の需要も高まりつつあります。

今後の戦略

こうした市場環境の中で、3つの分野それぞれにおいて、お客様のニーズに適応した製品・サービスの提供を通じて、持続的な成長を目指しています。

鉄道機械分野では、鉄道事業者の車両保守の効率化を支援するため、省人化と安全性向上を実現する車両自動搬送システムの開発・導入を進めています。 今後は、デジタル技術を活用し、外観検査装置など車両検査の省力化や、データを用いた予防保全による検修設備の信頼性向上・保守作業の効率化にも取り組みます。中央新幹線向け機械設備については、JR東海との共同研究開発や、山梨リニア実験線設備への納入及び保守業務を行ってきており、将来に向けて事業の柱の一つとするよう引き続き精力的に取り組んでいきます。

営農施設分野で扱う穀物乾燥調製施設においては、施設管理のデジタル化を推進し、穀物状態記録帳票の自動作成・管理を可能とするシステムの開発により、穀物品質を確保しながら現場作業を省力化できる提案を行っています。また、施設の更新需要を取り込むため、高品質かつ低コストな次世代型営農プラントの開発を加速していきます。

産業機械分野では、協力会社と共同開発した倍巻きトイレットペーパー用の新型包装機などの機械設備の拡販を進めるとともに、ロボットパレタイザーなどを用いた効率的な搬送ラインの構築にも注力します。また、リサイクル業界向けには高性能な破砕機を主軸に、製品単体にとどまらず、周辺設備を含めたライン提案を進め、新規顧客の開拓にも積極的に取り組んでいきます。



カントリーエレベーター



ロボットパレタイザー



輪軸回転試験機